

九州産業大学
第2回 建築都市工学部 全国高等学校 プロジェクトコンテスト 2019

課題

小さな柔らかい交通による新しい空間

■ コンテストの概要

九州発「プロコン」は、九州産業大学建築都市工学部が、私たちの住まい、地域、そして国土をよりよくするために、将来に向けて考えるべきテーマなどを毎年掲げ、全国の高校生と一緒に考えようとするコンテスト形式のイベントです。

〈住居・インテリア〉の領域から〈建築〉の領域、さらに〈都市デザイン〉の領域まで幅広い内容を扱います。設計部門とアイデア部門があり、高校生であればどなたでも応募・参加できます。

応募作品の中から一次審査を通過した入選者には、秋の学園祭の時期に本学に来ていただき、最終発表会でプレゼンの上、各賞の入賞者を決定します。

このたびの第2回の課題は、昨今注目の「自動運転化などの交通」に関する課題です。高等学校での日頃の学習やクラブ活動などの成果を活かして、ぜひともグランプリを目指して「プロコン」に挑戦してください。高校生の皆さんのフレッシュなアイデアをお待ちしています。

■ 課題の主旨

課題：「小さな柔らかい交通による新しい空間」

飛行機、高速鉄道、高速道路、鉄道、幹線道路など、“大量に遠くまで速く”を目指す交通を「大きな強い交通」と呼ぶことにします。大きな強い交通を形成すること、繋げることが都市の魅力と考えられてきました。

一方で徒歩を拡充する交通を「小さな柔らかい交通」と呼ぶことにします。具体的には、車いす、自転車、スケートボード、セグウェイ、ベビーカーなどです。

大きな強い交通を各々の生活と接続するには、徒歩や小さな柔らかい交通が不可欠です。例えば徒歩が困難な人（高齢者、小さな子供たちとその家族、妊婦、怪我をした人、身体的な障害がある人など）にとっては、「小さな柔らかい交通」の充実が求められています。

大きな強い交通を基軸にした都市や建築を作ることによって豊かさや利便性を追求してきましたが、「小さな柔らかい交通」との接続や共存については、まだまだ考慮の余地がありそうです。

そもそも大きな強い交通と繋がっていない地域や人口減少などで繋がりを絶たれた地域では、自動車だけが交通を担っていますが、「小さな柔らかい交通」を基軸に都市や建築を考え直す必要があるのかもしれませんが。

高齢者による事故の問題や運転免許など使用に制限がある自動車ですが、電動化や完全自動運転化されると小さな柔らかい交通の役割を担えるかもしれません。

このような状況をふまえて、「小さな柔らかい交通」による新しい都市や建築の空間のアイデアや実現可能な具体的な案を求めます。

■ 各領域からのメッセージ

下記に本課題に対する各領域の審査委員からのメッセージを掲載します。課題に取り組む際に参考にしてください。

〈都市デザイン〉領域

自動車郊外と呼ばれる自家用車を主要な交通とした住宅エリアで形成される地方都市では、自動車を運転できない子供や自動車を所有しない高齢者が移動の自由から疎外され、買い物難民の問題や高齢者の運転による交通事故の問題などが起こっています。

自動車も知られているように情報制御技術（AI）や情報伝達技術（IOT）による自動運転化や電動化の変化をとげようとしています。その変化でゆっくりと身近に誰にでもという可能性も見いだせそうです。そのような小さな柔らかい交通としての自動車の可能性から自動車郊外都市の再生を考えてみるのはどうでしょうか？

〈建築〉領域

エレベーターやエスカレーター、動く歩道は、徒歩以外の移動を促す建築装置です。これらの建築装置の活用方法を考えることで新しい建築空間を考えてみてはいかがでしょうか？

また、自動運転化、電動化された自動車と建築との関係、建築にどのように取り込めるのかなども考えてみてください。自動運転を前提にした道路と建築の関係も大きく変わるのかもしれませんが。考えてみてください。

近代には、サヴォワ邸（ル・コルビュジエ設計）やボルドーの住宅（レム・コールハース設計）など魅力的な移動が主題の建築が生まれました。次世代の魅力的な移動の建築を考えてみてください。

〈住居・インテリア〉領域

車いすでも入れますではなく、歩くことと車いすが共存するインテリア空間を生活の様々なシーンで考えてみてはいかがでしょうか？もちろん、車いすだけでなくベビーカーや歩行者、スケートボードなどが徒歩と共存するアイデアを期待します。

さらに、車いす、ベビーカー、自転車、セグウェイなど徒歩をサポートする交通がインテリアから都市へとシームレスで繋がり徒歩や自動運転化された自動車と共存する空間を考えてみてください。

■ 部門と提出物

a) 設計部門：具体的なまち・建築・住宅・インテリア・装置などの設計（設計図面を提出）

- ・ 設計内容を、配置図、平面図、断面図、立面図、展開図、透視図、スケッチ、説明図、模型写真等適宜選択（縮尺自由）および作品名、設計主旨などを用い、**A1判用紙（841mmX 594mm）横使いの設計図面**にまとめてください。
- ・ 紙質はケント紙あるいはそれに類する厚紙。パネル化は不可。規格外の提出図面は審査対象外とします。
- ・ 作図方法は、手書き、CAD、着色の有無等自由です。
- ・ 設計図面には氏名および学校名等、応募者が特定される情報の記入は不可とします。
- ・ 応募用紙（コピー可）に必要な事項を記入の上、**同封して提出**してください（のり等による設計図面への貼付け不可）。

b) アイデア部門：研究調査に基づいたアイデアの提案（図表と文書を組み合わせた提案書を提出）

- ・ 提案内容を、文章（合計で1000～1200文字。文字大ききさ10pt以上）および内容をわかりやすく示す図や表、スケッチやダイアグラム、写真などを用い、**A3判用紙（420mmX 297mm）横使い2枚から4枚の提案書**にまとめてください（表紙含む）。
- ・ 紙質は自由。左端ホチキス2点止めの冊子とする。規格外の提案書は審査対象外とします。
- ・ 図表等の体裁は自由（手書き、着色、パソコンソフト使用等）です。
- ・ 表紙には作品名を明記してください（表紙にそれ以外の内容が含まれていても良い）。
- ・ 提案書には氏名および学校名等、応募者が特定される情報の記入は不可とします。
- ・ 応募用紙（コピー可）に必要な事項を記入の上、**同封して提出**してください（のり等による提案書への貼付け不可）。

■ 応募

- ・ 応募資格：日本国内の高等学校（高等専門学校は除く）に在籍する生徒です。
- ・ 応募は個人とし、グループでの応募は不可とします。
- ・ 質疑応答は行わない。但し、実行委員会より、補足解説や追加情報などをホームページにて発信する場合がありますので、**ホームページの情報更新にご注意**ください。
- ・ 設計部門とアイデア部門のいずれかの応募用紙とともに作品を郵送してください。
- ・ 提出期限：**2019年9月2日（月）**。提出は郵送のみとし、郵便局における当日消印有効です。
- ・ 提出先：〒813-8503 福岡市東区松香台2丁目3番1号
九州産業大学建築都市工学部「プロコン」実行委員会 / e-mail: procon@ml.kyusan-u.ac.jp

■ 審査委員

- ・ 九州産業大学建築都市工学部教員他
- ・ 審査委員長：住居・インテリア学科 福山 秀親 教授

■ 賞

一次審査を通過した者を入選者とし、入選者には、**11月3日（日）**、本学にて開催の**最終発表・審査会**で発表をしてもらいます。その発表を元に最終審査を行い、次の各賞の入賞者を決定します。なお、**設計部門、アイデア部門は分けずにあわせて審査**をします。入賞者には賞状および賞品を贈呈し、あわせて入賞者が在籍する高等学校に副賞を寄贈します。賞品は図書カード等です。

グランプリ	： 1点（賞品 12万円）
金賞	： 1点（賞品 6万円）
銀賞	： 2点（賞品 3万円）
銅賞	： 3点（賞品 1万円）
奨励賞	： 5点（賞品 5千円）
副賞	： 入賞者が在籍する高等学校へ（賞品 1万円）

■ 一次審査結果発表と最終発表・審査会等

- ・ 一次審査結果発表：**2019年9月27日（金）**
一次審査を通過し、最終発表・審査会へ進む入選者を、ホームページに掲載するとともに、入選者に直接通知します。
- ・ **2019年11月3日（日）**に、**最終発表・審査会および授賞式・懇親会**を行います（終日予定）。
- ・ 最終発表・審査会に出席する入選者および指導した教員の交通費（実費）は本学で負担。

■ 入試出願・奨学金

入賞者は、本学建築都市工学部の出願条件を満たす学科の高校推薦選抜入試に出願することができます。また、銅賞以上の入賞者は、建築都市工学部に入学した場合、中村治四郎奨学金（学術・文化特待枠）の申請により、1年間の授業料が免除されます。詳しくは、本学学生募集要項等を参照してください。

■ 図面および提案書の返却等

応募作品は、一次審査結果発表後3ヶ月以内に高等学校宛に一括して返却します。但し、一次審査通過の入選作品については、原本を大学にて保管させていただき、複写物での返却とさせていただきます。なお、一括返却前の返却要請には対応できません。文化祭等で提出図面が必要となる場合は、あらかじめ複写をとるなどしてください。

また、応募作品の著作権は応募者に帰属しますが、応募作品の利用に関する権利は、九州産業大学建築都市工学部に帰属するものとします。

